

穴水小学校施設建替基本計画（概要版）

～「みんなが自慢できる、みんなでつくる学校づくり」を目指して～

1. 事業の経緯と目的

町立穴水小学校は、令和6年能登半島地震によってコンクリートの柱や壁が損壊し、床面が沈下するなど大きな被害を受けました。これを受け、児童や教職員の安全確保ができないことから、令和6年1月29日に穴水中学校の校舎を間借りして授業を再開しましたが、校舎の継続使用は不可能と判断し、新しい校舎の建設を実施することを決めました。

また、学校以外にも、体育館やプールなど社会教育施設の多くも被災し、復旧方法の検討が必要となったことから、それらの施設についても建替・複合化を視野に入れ、学校との併設又は隣接した場合の学校教育への効果や町民の利便性を検討したうえで、学校を中心とした関係施設の一体的な整備を実施することとしました。

本事業は、学校関係施設の建替に当たり、新しい学校のコンセプトや目指すべき学校像を設定したうえで、建設場所の選定や施設の配置計画等をまとめるなど、穴水小学校施設の建替に関する基本計画を策定するものです。



穴水小学校



穴水小学校仮設校舎

2. 学校づくりの目標

未来づくり会議で児童・保護者・教員など町民から出された意見・要望を踏まえて新しい学校づくりの目標を以下のように設定します。

みんなが自慢できる、みんなでつくる学校づくり

- 復興のシンボルとして、みんなの夢を集め、想いを込めてつくる
- いつまでも、きれいで快適に過ごせるようにする
- 通ってよかったと思えるように、子どもたちをみんなの力で支える

だれひとり取り残さない、みんなが過ごしやすい学校づくり

- 子どもの個性を活かしたり、才能を伸ばすことができる学校
- 協力して学べる学校
- 集中して学べる学校
- 冒険したくなる、挑戦したくなる学校
- 全てが学びの場となる学校

安全・安心な学校づくり

- 災害に強く、子どもたちの命を守る学校
- 町民の避難所として使いやすい学校
- 「みんなで守る」防犯に優れた学校

子どもも大人も行きたくなる学校づくり

- 町民みんなにとって、居心地の良い「居場所」のある学校
- いつでも遊び、いつでも学べる学校
- 多世代が集い、様々な体験ができる学校
- 楽しく作ってみんなで食べるまいもん学校

自然を生かした学校づくり

- たくさんの動植物を育てられる学校
- いつも花々が咲き誇る華やかな学校
- 木の香りが漂う温かみのある学校

3. 未来づくり会議

基本計画の策定にあたり、児童、保護者、教員など町民の意見を取り入れながら検討することが大切と考え、新しい学校施設に対する夢や希望をみんなで語り合う場として未来づくり会議を開催しました。

【第1回】テーマ：「新しい学校への夢を語り合おう」

【学校づくり】

- ・子どもたちが自分の学校を自慢に思える学校
- ・安心してのびのび楽しく活動したくなる学校
- ・真面目に勉強する子だけでなく、個性を生かしたり、才能を伸ばしたりできる学校

【施設】

- ・広々としてゆとりのある開放的な教室配置・図書が充実した楽しい図書館
- ・温水プールなどスポーツ施設の充実した学校施設
- ・観覧席があるアリーナやステージがある多目的ホール

【自然】

- ・木の香りや暖かみのある学校
- ・木材の利用、木の香りがする校舎
- ・自然を生かした風土に溶け込むやさしい学校

【環境・活動】

- ・図書館が中心にあり児童が交流できるスペース
- ・教室以外にも自分が好きな場所や居心地のよい場所を見つけられる環境、多世代で学ぶ学校
- ・地域の人も利用できるようにスペースや設備
- ・給食はランチルームで楽しく食べたい

【安全・安心】

- ・地震に強く防災拠点となる施設
- ・震災がおきても子どもたちを守る丈夫な学校
- ・避難所として機能する学校（備蓄、プールの水の活用）



【第2回】テーマ：「学校を中心としたまちづくり」

【小学校敷地に関する意見】

- ・町の人が近くを通り、見守りがしやすい
- ・中学校敷地に比べて歩道が広い
- ・B&G海洋センター体育館や公園が近く、遊ぶ場所が確保されている
- ・アクセスしやすく集まりやすい
- ・位置的にブルートや商店街とつながりがある

【提案・要望】

- ・新小学校建設に合わせて、B&G海洋センター、学童、図書館等を新しくし、集約する
- ・花が多く、自然を感じながら通学できる環境
- ・遊具なども含め多様な場がほしい
- ・だれとでもコミュニケーションをとれる給食スペースがあると良い

【中学校敷地に関する意見】

- ・兄弟のいる家庭は送迎しやすく親負担が減る
- ・学年を超えた交流の機会が増え、活気のある学校づくりができる（小中連携もしやすい）
- ・体育施設や図書館を集約でき、利便性が増す
- ・西川島やニュータウンなどこれから発展するエリアの中心となる可能性がある

【地域利用】

- ・セキュリティ対策をしたうえで、地域の人が自由に入出入りできる施設が良い
- ・たくさんの目があり安心できる施設
- ・大人と子どもの交流の場にしたい

4. 目指す学校像

- ・学校教育の場として子どもたちの成長を支えるとともに、子どもたちや町民の居場所、活動場所となる学校を目指します。
- ・小学校と中学校の連携強化を図るための充実した教育環境を実現します。
- ・従来通りの閉鎖的な教室ではなく、クラスや学年を超えた活動がいつでも展開できるよう、ゆとりのある教室空間が連続的に配置される学校空間を目指します。
- ・図書館を学校の中心と位置づけ、子どもたちの居場所、小学生と中学生の交流場所とし、学校全体が学びの場となる学校空間を目指します。
- ・体育館は運動だけでなく、行事・集会・発表・公演等、多目的な利用に応えられるような施設とします。
- ・学校施設が住民の活動場所、コミュニティづくりの核となるよう、地域利用とセキュリティ確保の両立を目指します。

5. 建設場所の選定

穴水小学校施設の建設場所として、より良い学校教育環境を選定するため、穴水小学校敷地と穴水中学校敷地を候補地として比較検討を行いました。

候補地		穴水小学校敷地	穴水中学校敷地
概要	エリア・形状		
	面積	約 25,000 m2 (真名井児童公園、B&G施設含む)	約 35,000 m2 (一部民有地含む、道路面積除く)
ア. 土地の利用可能性		・穴水小体育館、B&G海洋センター、都市公園など既存施設が密集しており、新たな校舎の形や配置などに制約を受ける	・敷地が広いため、学校施設に加えて町民も利用できるスポーツ施設、学習・コミュニティ施設の配置が可能
イ. 敷地別の整備事業費及び財源		・概算事業費 4.9 億円 (町負担 6 億円) ・既存施設を補修したうえで現状のまま利用することにより、事業費を低減できる	・概算事業費 7.8 億円 (町負担 1.2 億円) ・敷地の広さを生かし、小中学校の利用に限らず、一般利用を前提とした教育施設を整備し、文部科学省、国土交通省等の補助金を活用する
ウ. 教育環境		・これまでと同じ敷地であり、児童は通い慣れた通学路を利用できる ・これまでと同じ体育館、運動場が利用できるため校舎移行直後でも混乱が生じにくい	・小中の距離が近く児童生徒及び教員同士の連携が容易 ・新たに整備する施設は小学校だけでなく、中学校も利用するなど、小中の施設を相互利用できる
エ. 未来づくり会議での主な意見		・地域の人がアクセスしやすく、見守りがしやすい ・町中心に位置し、まちづくりの観点で有利	・小中学校が近くなり、児童生徒及び職員間の連携がとりやすい ・小中の交流の場となり、勉強以外の学びが得られる

検討の結果、以下の理由から穴水小学校施設の建設場所として、穴水中学校敷地を選定します。

- ① 小中の枠を超えた異学年交流が生まれ、人間関係が広がり、様々な経験を通じて子どもが成長できる
- ② 学校行事を小中合同で行うなどの連携が行いやすく、活気ある学校づくりができる
- ③ 小学生は中学校を身近に感じて学校生活を送ることができ、進学不安軽減により不登校を防ぐ
- ④ 教職員の交流が生まれ、指導面での情報交換や相互の授業公開、合同授業により指導力向上につながる
- ⑤ 部活動やスポーツ少年団など、授業以外にも小中の交流が生まれ、競技力向上や人間形成につながる
- ⑥ 敷地が広いため、将来的な一貫教育を見据えて調理場、体育館、プール等の学校関係施設を集約できる

6. 配置計画の検討

1) 計画条件の設定

整備概要	配慮事項
■校舎：3,300㎡（普通教室6学級、特別支援学級2学級を想定した補助基準面積による） ■共同調理場：500㎡ ■体育施設：3,500㎡（屋内運動場：2,500㎡、屋内プール：1,000㎡） ■放課後児童クラブ：300㎡ ■図書館：450㎡（ブルート内町立図書館を移転） ■グラウンド：200mトラック+150mトラック（小中それぞれに確保することを想定）	・敷地内駐車場は小学校教員用40台分、中学校既設50台分、共同調理場10台分、来客等一般用に50台程度を確保する ・共同調理場から小中学校への給食配膳は屋内完結とし、車両での輸送はしない ・職員室から昇降口へのアプローチ及びグラウンドに対する視認性を確保する ・グラウンドは小中それぞれに必要な面積以上を確保する ・教職員を含めた小中連携を前提とした教育に最適な施設配置計画とする

2) 各スペースの計画目標

	イメージ図	計画目標
教室まわり		・教育方法の多様化と児童の多様化に応えられる教室まわりとする ・成長段階に応じて学びの環境を変化させ成長を実感できるようにする ・生活の場として快適性を保証し、みんなが居心地の良い空間とする ・児童の持ち物や教材置場、先生のコーナーを教室周りに用意することで、児童だけでなく教員にとっても充実した教育環境とする
体育施設・多目的ホール		・スポーツ活動が安全で快適な環境で行えるようにする ・小学校の体育授業の場として体格を考慮したアリーナ環境を整える ・スポーツ後にくつろいだり、交流できる場所を用意する ・多目的ホールはランチスペースと兼ね、集会、合唱、発表等の多目的なニーズに対応できる空間とする
図書館		・小中学校共有の学習の場、リラクゼーションの場として、いつでも児童生徒に開かれた空間とする ・ゆとりあるスペースを確保し、図書に親しめる居心地の良い環境とする ・小学生と中学生がともに放課後や休日を含めていつでも利用しやすい場所に整備する ・特別教室や放課後児童クラブ等からもアクセスしやすい環境とすることで、子育て支援や地域コミュニティ活動の充実を図る

3) 概算事業費の検討

本事業において整備する学校関係施設の整備面積に対する概算事業費を以下のとおり算出しました。

・校舎	3,300㎡	2,500,000千円
・図書館	450㎡	360,000千円
・共同調理場	500㎡	600,000千円
・放課後児童クラブ	300㎡	200,000千円
・体育施設	3,500㎡	2,600,000千円
・外構	12,000㎡	960,000千円
・既存建物解体（校舎など）		580,000千円
		合計 7,800,000千円

7. 事業スケジュール

令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度
入札 基本設計 (約6か月)	実施設計 (約10か月)	入札 建設工事 (約20か月)	引越	供用開始

※これは現時点の目標であり、今後の設計の進捗状況や社会情勢の変化などによって変更することがあります。